

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。研修も大詰めとなりました。でもまだまだ動物の不思議の観察は続いています。たぶんずっとするでしょう。でも、園を離れるとそのチャンスがぐっと減ってしまいますね。今回は、こんな場面を狙ってみては！というアドバイスです。



翼があっても空を飛べない鳥というダチョウとペンギンが思い浮かびますね。ダチョウは「熱帯動物館」に、ほ乳類とともに展示してありますが、大きなからだ、長い首や足を見ると鳥類であることを忘れてしまいそうです。アフリカ大陸でライオンやシマウマと一緒に草原で生活している最大の鳥類です。体重は100kgを超えることもあり、つばさには飛ぶ力はほとんどありません。そのかわり敵から身を守る足が発達して、指も蹄のよう丈夫な作りになっています。走ると時速90キロくらい出ますし、この足で蹴ることで敵を遠ざけることもあります。一方のつばさですが、地上生活が長くなるにつれて弱くなり、胸には動かす筋肉をつける骨もなくなってしまいました。



では、つばさはどんなときに使うのでしょうか。走るとき、からだのバランスをとったり、求愛の表現行動で使います。からだにあわせて卵も大きく1kg以上あります。そのほかにも鳥らしい部分とそうではない部分が見られます。左の写真はダチョウの口ですが、ここを見るだけでも発見できますね。(ダチョウ目ダチョウ科)



円山動物園のダチョウ

アフリカの半砂漠やサバンナ(草原)に生息し、体高 200 ~ 250 cm、体重 90 ~ 130kg、飛ばない鳥(エミュー、レア、ヒクイドリ、キーウィ)の仲間の走鳥類で最大。時速 50 kmで長距離を走ることができます。卵は世界最大で、殻の厚さが 3 mm、重さ 1500 g(鶏の卵 25 個分)。野生の食べ物は、粗食に耐え、草や木の葉、種子、昆虫、トカゲ、等の小動物も食べます。餌はクローバー、(冬期間、キャベツ、モヤシ、煮干)成鶏配合飼料、MSペレット、カキ殻、塩土。

★バロン オス、昭和 58 年 4 月入園、全体が黒く、風切りと尾羽が白い。

★ドニー メス、昭和 62 年 9 月円山生まれ、全身がほぼ灰褐色。

平均寿命 約 15 年、飼育記録 21 年。

動物園で観察するには、とても長い時間が必要なことを改めて感じています。先日、「オオアナコンダ」(ヘビ)の給餌場面を見ました。大きなネズミ(ドブネズミを家畜化したラット)を与えていましたが、数ヶ月に1度だそうです。何匹食べていたと思いますか。(先日のビルマニシヘビは1匹ずつでした。)でもその答えは、数ヶ月後ですね。是非見てほしい場面ですが、ヒットできるでしょうか。もしヒットできたらレポート提出を忘れないでね！期待しています。では、また。